

小学校3年生
社会科
「市のうつりかわり」

《教科書》
新しい社会3:p116~137
《副読本》
p57~72

1. 『ねらい』

- ・文化の森にある古から残る暮らしに関わる道具を使う体験を通して、その道具の名前や使い方はだけでなく、昔の人々の知恵や工夫、苦心などを知ることができる。
- ・地域に住んでいる方々から古い道具を使っていた頃の体験談を聞くことで、昔の生活のようすを知ることができる。…など

3:人数	4:活動月	5:活動時間
約70名/1日あたり	9~3月	終日(9:00頃~15:00頃)

2:児童の持ち物 *児童が活動で使う物を探検バッグなどにまとめて来てください。	筆記用具、探検バッグ、ワークシート、弁当、水筒、敷物 洗濯したいもの(白系の汚れた靴下、絵の具ぞうきんなど)、洗濯ばさみ、ビニル袋(洗濯もの持ち帰り用)、軍手(すべり止めなし)
--	---

6:必要な人員の目安	学芸係、学習係、ボランティア
------------	----------------

7. 学習内容

事前の学習	・教科書や副読本に載っている昔の道具の写真や絵、家にある道具の名前や使い方を調べている。 ・わからなかったことを質問にまとめる。 …など
事後の学習	・活動の感想や気づいたことを話し合う。 ・学校や家で調べた内容と文化の森での活動を、年表などにまとめて道具のうつりかわりを知る。…など

時間	1組	2組	場所	先生(T1)	学習係(T2)・ボランティア(T3)
10分間	◆文化の森到着		正面玄関	・安全確保	
20分間	◆始めの会 ・あいさつ・学習支援ボランティア、学習係の紹介と話・先生の話		エントランスホール	・司会補助	・自己紹介
70分間	◆活動A:みのかものうつりかわり ・交通の移りかわりを中心に、70年くらい前のくらしの様子を知る。		緑のホール	・ねらいの確認	
70分間	◆活動B:洗濯板で洗濯 (3~5人グループ) ・昔の洗濯の話聞き、洗濯板で洗濯をする。 ・片付けをする。 ・洗濯の道具の移りかわりについて聞く。 ・炭火アイロンを見学する。	◆活動C:七厘で火起こし▽ (3~5人グループ) ・火起こしの方法聞き、グループで火起こしをする。 ・餅を焼いて食べる。 ・片付けをする。(炭火アイロンに炭を移す)	活動B: 生活体験館 裏庭 (雨天時:工芸室周辺)	活動ABCD ・移動、整列 ・グループ分けの指示 ・活動支援 ・声かけ	活動ABCD ・注意事項 ・安全確保 ・活動支援 ・声かけ 活動A ・みのかものうつりかわりの話
70分間	◆活動D:昔の道具調べ☆ (3グループ) ①石臼の話聞き、大豆を挽く体験をする。 ②オカッテでの台所ごと、箱膳など食事に関わる道具 ③明かりの道具のうつりかわり	◆活動B:洗濯板で洗濯	活動C: 生活体験館 前庭 (雨天時:施設間通路)	活動ABCD ・安全確保 ・活動のまとめ	活動B ・洗濯の仕方の実演 ・洗濯の道具の移りかわりの話 活動C ・火起こしの説明 ・七厘の管理
50分間	◆昼食 場所:芝生広場 (雨天時:研修室、工芸室)		活動D: 生活体験館 室内		活動D ・道具の説明 ・道具の移りかわりの話
70分間	◆活動C:七厘で火起こし体験▽	◆活動D:昔の道具調べ☆			
10分間	◆終わりの会 ・児童の感想・ボランティア、学芸員、学習係の話・先生の話				
	◆文化の森出発				

8. 安全面への配慮

- ・活動Cでは道具の扱いによるヤケドやケガに注意する。▽

10. 雨天時の活動予定

- ・活動Bの洗濯は工芸室周辺、活動Cの火起こしは、屋根のある施設間通路で行います。

11. 備考

- ・活動BCの体験活動では、炭火アイロン体験(アイロンの話を聞き、アイロンがけをする)を行うこともできます。持ち物(しわのついていないハンカチ、軍手)→【活動E】▽
- ・活動Cでお餅を焼く場合に、大豆などのアレルギーが心配な児童がいる場合は新しい焼き網を持ってきてください。
- ・活動Dについて:
・道具調べについては、P.87のワークシートを参照してください。
・ほかにも暖房用具(火鉢、やぐらごたつ、あんか、湯たんぽなど)を取り上げることもできます。
・☆石臼体験で使う大豆は、生の大豆を前日までに煎ってきてください。大豆の乾煎りの目的は水分を抜くことと焦げ目をつけることです。(衛生上、食べることはできません)
- ・活動中、トイレ休憩は随時とってください。

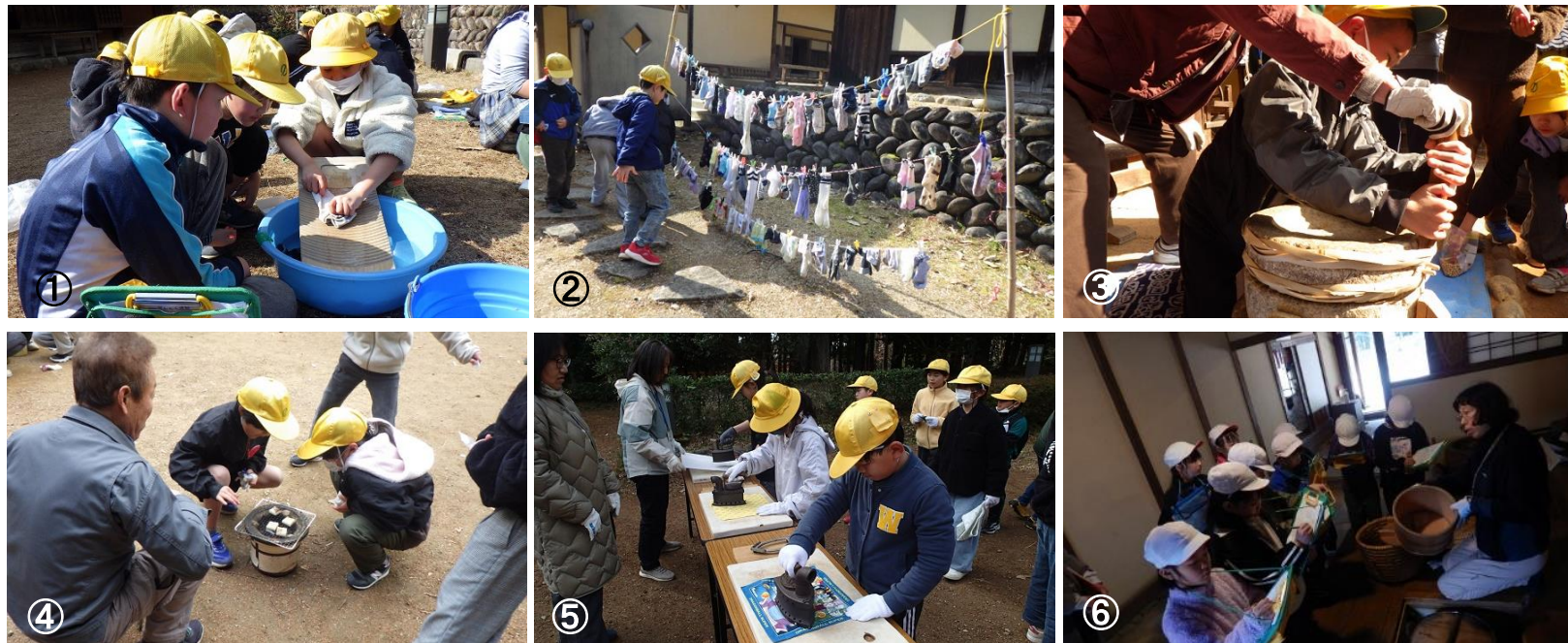
9. 用意する物

学校	【活動ABCD】ワークシート 【活動C】餅、紙皿か紙コップ(焼いた餅用)、割りばし、しょうゆなど、ゴミ袋、軍手(予備) 【その他】救急セット
文化の森	【活動A】PP資料 【活動B】洗濯板、たらい、バケツ、洗濯石けん 【活動C】七厘、うちわ、火ばさみ、十能、消し壺、焚き付け材料、消し炭、堅炭、マッチ 【活動D】①石臼、②羽釜・鍋・なべ・きなべ・つかみ・火吹き竹、おひつ・いづめ・箱膳、③燭台・行灯・石油ランプ・はたか電球など 【その他】救急セット

12. 2025年度実践校一覧 ※アルファベットは上の学習内容に対応しています。

月	日	日程	学校名	学級数	人数	学習内容
11	11	終日	多治見市立南姫小	1	25	活動B:洗濯体験 活動C:七厘で火起こし 活動D:昔の道具しらべ 活動E 炭火アイロン体験
2	3	終日	関市立安桜小	2	65	活動B:洗濯体験 活動C:七厘で火起こし 活動D:昔の道具しらべ 活動E 炭火アイロン体験
2	6	終日	下米田小学校	2	64	活動B:洗濯体験 活動C:七厘で火起こし 活動D:昔の道具しらべ
2	10	終日	伊梁小 三和小	1 1	12 15	活動B:洗濯体験 活動C:七厘で火起こし 活動D:昔の道具しらべ 活動E 炭火アイロン体験
2	12	終日	山手小学校	3	87	活動B:洗濯体験 活動C:七厘で火起こし 活動D:昔の道具しらべ
2	17	午前	山之上小学校	1	20	活動B:洗濯体験 活動C:七厘で火起こし 活動D:昔の道具しらべ
2	25 26	終日	古井小学校	2 2	64 67	活動B:洗濯体験 活動C:七厘で火起こし 活動D:昔の道具しらべ
3	3 4	終日	加茂野小学校	1 2	36 70	活動C:七厘で火起こし 活動D:昔の道具しらべ、その他:小刀でえんぴつけずり

13. 学習の様子



①洗濯板で洗濯 ②干した洗濯物 ③石臼体験 ④七厘で火起こし ⑤炭火アイロン体験 ⑥昔の道具調べ(食事の道具)

14. 指導要領の該当部分における記述について

第3学年社会科「市のうつりかわり」について、学習指導要領には以下のように記述されています。

《第3学年の内容(4)ーア(知識及び技能)より一部抜粋》 ※下線は学習係による

- (ア)市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。
・昔から今に至る時間の経過に伴って、生活で使う道具などが改良され変わってきたことなどを基に、市や人々の生活の移り変わりについて理解すること。
- (イ)聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。
・博物館や資料館などの関係者や地域の人などへの聞き取り調査をしたり、関係機関が作成した資料などで調べたりして、年表にまとめる。
・聞き取り調査に必要な情報を集める技能、地図や写真などの資料を見比べながら、移り変わりなどの情報を読み取る技能、時期の区分や時間の経過に沿って、調べたことを年表にまとめる技能
・年表に元号などを位置付けて、市の様子の移り変わりを年代順に整理できるようにすることが大切

《第3学年の内容(4)ーイ(思考力、判断力、表現力等)より一部抜粋》 ※下線は学習係による

- (ア)交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。
・電化製品が普及する前と普及した後、及び現在の生活の中で使用している道具の使い方や生活の様子についてしらべること。
・炊事や洗濯など家事に使用する道具や明かりや暖をとる道具など生活の中で使われた道具を取り上げる。

2018年度まで、「古い道具と昔の暮らし」という1つの独立した単元であった昔の道具と暮らしに関わる学習が、現在の指導要領では、「市の様子と人々の暮らしのうつりかわり」という単元の中の一部(道路や鉄道のうつりかわり、土地の使われ方のうつりかわり、人口のうつりかわり、公共施設のうつりかわり、道具と暮らしのうつりかわり)となっています。このことにより、昔の道具の学習に充てられる授業時数も少なくなっています。しかし、その中でも、変わらずに、博物館での調査活動や、実際の道具を取り上げての学習は推奨されています。より求められているのは、人々の暮らしがどのような過程を経てうつりかわってきたのかということを経過とともに捉える力です。そのためには、昔の道具や資料について、うつりかわりの様子が見えるものを何点か準備し、比較することができ、活動を仕組むことが有効であると考えられます。博物館で取り扱っている昔の道具や資料を、ぜひご活用ください。



明かりのうつりかわり：燭台→行灯→石油ランプ→電球 (ボランティアさんのお話とともに)

15. 「地域・防災情報室」 「みのかものうつりかわり」について

2021年11月、文化の森の2階に地域・防災情報室がオープンしました。展示のひとつに「みのかものうつりかわり」があります。小学3年生の社会科「市のうつりかわり」に合わせて、美濃加茂市ができた昭和29年から令和までと、その前の時代である大正・明治時代の移り変わりについてパネル展示をしています。

副読本や教科書に合わせて「交通のうつりかわり」では鉄道や道路、「村と町が集まって美濃加茂市ができた」では学校や公共施設、「みのかものいろいろなくらし」では農家や工場、「道具のうつりかわりと今」では明かりや洗濯などの移り変わりを紹介しています。

併せて作成した冊子「みのかものうつりかわり」には、より詳しい年表が掲載されています。また、同じ内容を文化の森HP「学ぶ・楽しむ」学校向けページに「みのかものうつりかわり」(資料集30P)で公開しています。是非ご活用ください。
アドレス: <http://www.forestminokamo.gifu.jp/introduce/pdf/04.pdf> ← HP「学校向けプログラム」QRコード



『カニサイのひとりごと』

- ★昔の道具を使った構図が、単に「昔の人は大変だった、苦労していた」「お餅が美味しかった、洗濯水が冷たかった」というような感想で終わらないために、その道具の工夫に注目したり、その後の移り変わりを考えたりすることで、指導要領に沿った貴重な構図学習となります。
- ★電気やガス、水道がなかったころは、子どもたちも大切な家族の一員として、水くみやランプみかきなどいろいろな仕事をまかされていたことがわかります。たいいんだったというだけでなく、だからこそ持っていた知識や技を学べることもたくさんあることに気づいてほしいです。
- ★七厘で使った後の炭を、炭火アイロンや火鉢に使ったりすることで、ものを最後まで使い切るといふ、今と違う暮らしを知ります。今の時代にも大事なことだという考えにつながった子もいました。
- ★夜の暗闇を少しでも明るくしたいと、昔から工夫を重ねてきた道具に、実際 順に火を灯していくと、そのたびに明るさが増していきます。はたか電球を点けたときのまよきには、思わず「わーっ明るい!」と子どもたちから声があがります。昔の人たちもどんなうれしかっただろうねと喜びに共感する笑顔です。今はどこでも明るく電球がもっている家ですが、ろうそくや石油ランプの炎の下に家族全員が集まって過ごすその夜の夜を、それもいふあつやきももれました。

